



コロナ禍におけるオーケストラ

てらにしもと ゆき
寺西基之

音楽評論家
日本交響楽振興財団評議員

世界を一変させた新型コロナウイルスは、日本のプロのオーケストラ界にも測り知れない影響を与えた。昨年2月末からの4カ月間ほぼすべての演奏会が休止に追い込まれたことによってチケット収入が断たれ、6月末からやっと少しずつ開催が再開されたものの、奏者間のディスタンスの問題、それに起因する編成縮小ゆえのプログラム変更、外国からの渡航制限による指揮者やソリストの変更、ホールの入場制限のための席の再配分、検温や消毒などの感染防止対策等々、山ほどの問題に対する費用と手間をかけての対処を余儀なくされた。

もともと経済的基盤の弱い日本の楽団が被った打撃は甚大だ。イベント自粛で公演ができなくなった当初は、すぐにも存続が不可能になる団体が出てくることも懸念されたが、各楽団がそれぞれに苦難な状況を乗り越えるべく、様々な制約の中で今できること、今できる形は何かを探りながら、経営と企画の両面で必死に努力と工夫を重ね、前向きに活動を行うことで、今のところそうした最悪の事態は避けられている。ただ今年度は様々な助成金や寄付で乗り切れるとしても、コロナによる財政的影響は来年度以降に大きく響いてくると思われ、ここ数年がオケにとって正念場となりそうだ。

コロナ禍において多くの楽団が活用したのがネット配信だった。楽員が集まること自体が不可能だった自粛期間中から、リモートでの新しい試みがなされた。例えば、新日本フィルのメンバー全員が各自自宅に在ながらオンラインで一緒に演奏したことが反響を巻き起こしたのははじめ、多くの楽団が楽員のインタビューや演奏、楽器紹介など興味深い企画を打ち出したし、自粛解除後は演奏会そのものの配信も増えた。配信は、通常の演奏会では接し得ないオケの一面を知る機会を与えるとともに、遠方の音楽ファンにも楽団の存在をアピールでき、さらには普段クラシックに縁遠い人も気軽にアクセスできる

など、新たなファンを開拓する大きな役割を果たしたといえよう。

ただ配信でこそ可能な様々なメリットがあるにせよ、それは生の演奏会とはやはり別物である。コロナ禍の中で様々な楽団の配信を楽しんだ私が、演奏会が再開され始めた時に痛感したのが、そのことだった。演奏家たちが目の前で作り上げている音楽を、同一の時空間で聴衆が共有するという特別な体験こそが演奏会の醍醐味であり、コロナ禍で演奏会が一度途絶えたことでそのことが再認識できたことは大きかった。もちろん、コロナを機に普及した配信という新たな手法も今後オーケストラの活動に積極的に取り入れていくべきだが、それが生演奏に取って代わることはないだろう。

たしかにコロナ禍によってオーケストラの演奏会は一変し、指揮者や協奏曲のソリストはほぼ日本人に限られ（それは結果的に日本人演奏家の底力を示すことにもなったが）、“密”や飛沫の問題から大編成の作品や声楽の入る作品を取り上げることが難しいといった状況を生み出した。本稿執筆中の12月下旬ではこうした状況は少しずつ変わりつつあるが、正常化にはまだまだ程遠い。ワクチンが一般化するなどしてコロナが収束するまでは、この問題は後を引くことになるだろう。

コロナがもたらしたこのような状況を機に、演奏会の形態そのものや演奏レパートリーを根本的に見直すことを提唱する識者もいるが、経済的に大打撃を受けている現在のオーケストラ界にとって、今そうした面でラディカルな改革に乗り出すといった冒険は現実的ではない。ただ経営の面では、いち早く資本性劣後ローンを導入した日本フィルなど、存続をかけての積極的な動きがみられ、それは今後のオケ運営の仕方の見直しに繋がっていくだろう。未曾有のピンチは今後のオーケストラのあり方を変革するチャンスとなるかもしれない。

2020年度の公演活動（競輪補助事業）について

2020年は世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄された年であった。そのような中、日本交響楽振興財団は公益財団法人JKAの支援を受け、2020年度事業として巡回公演9回、アマチュアオーケストラの演奏会を3回開催した（別表参照）。これまでに経験したことのないコロナ禍における演奏会開催となったが、その模様を紹介したい。

新型コロナ感染症で演奏回数が減少

2020年4月の時点では、例年のように巡回公演12回、アマチュアオーケストラ演奏会5回を開催予定であった。ところが、新型コロナウイルス感染症の急激な拡大により、コンサート開催の見通しが立たなくなった。そのため、巡回公演では当初予定していた茨城県日立市、岐阜県飛騨市、秋田県横手市、静岡県伊豆の国市公演が中止となり、2021年度に延期することとした。大阪府富田林市と広島県庄原市公演については、5～6月と比較的早い時期に演奏会を予定していたため、スケジュールの再調整がうまくいき、2020年度内に開催することができた。

アマチュアオーケストラの演奏会についても、当初フィルハーモニー・ウィーン・名古屋、戸塚区民オーケストラ、虎の門交響楽団が開催予定であったが、中止を余儀なくされた。そこで、浦和ユースオーケストラと大津管弦楽団の演奏会を計画したが、これも中止に追い込まれた。アマチュアオーケストラの場合、演奏会までの練習時間・場所の確保の問題、また練習会場での「3密」の問題などもあり、コロナ禍での演奏会開催の難しさを浮き彫りにした。

その結果、2020年度の公演回数は巡回公演9回、アマチュアオーケストラ演奏会3回となった。コロナ禍の中、関係各位のご協力を得て、どうにか巡回公演とアマチュアオーケストラ演奏会を開催できたことを多としなければならぬと思う。以下、演奏会の模様を紹介したい。

コロナ禍でのベートーヴェン生誕250年

9月の舞鶴公演で特記すべきは、指揮者のヤーノシュ・コヴァーチュさんが渡航制限のためにハンガリーから来日できなくなり、原田慶太楼さんが代役を務めたこと

である。原田さんは若手の注目株のひとりで、今年4月から東京交響楽団の正指揮者に就任することになっている。原田さんの巡回公演出演ははじめてであったが、若々しく躍動感あふれる指揮ぶりは舞鶴の聴衆の心をつかんだ。今後、巡回公演での出演が増えることが期待される。



入間公演

2020年はベートーヴェン



岡谷公演

生誕250年であった。岡谷公演では、新日本フィルハーモニー交響楽団に大植英次さんの指揮、上原彩子さんのピアノ独奏で、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」や交響曲第5番「運命」ほかを演奏した。新日本フィルと大植さんが協演するのははじめてとのことであったが、巡回公演を契機に楽団と指揮者や独奏者の新しい関係が始まるようにしたいと考えている。

加茂公演と長野公演は当初、ベートーヴェンの第9交響曲「合唱付き」をメインに据えたプログラムにする予定であった。第九演奏会はオーケストラのみならず、大人数の合唱団も舞台にあがるため、いわゆる「3密」の演奏形態になってしまう。これを回避するため、両会館ともプログラムの変更を決断するとともに、演奏会当日は感染症が発生しないよう検温や消毒などの対策を徹底して行うこととした。

その結果、加茂公演ではベートーヴェンの交響曲第6番「田園」のほか、地元出身のオペラ歌手3名が東京交響楽団の演奏するオペラの名曲や、古関裕而の往年のヒット歌謡を高らかに歌いあげた（4ページ参照）。

20代の演奏家の活躍と新しい楽団の支援

長野公演では、長野県佐久市出身の上原朋子さんがリヒャルト・シュトラウスのオーボエ協奏曲を演奏するとともに、4名のオペラ歌手がオーケストラ・アンサンブル金沢の演奏するビゼーの「カルメン」を演奏会形式で熱唱した。

12月の庄原公演では、7年ぶりに広島交響楽団とヴァイオリンの福田廉之介さんの協演が実現した。前回2013年に協演した時まだ小学生だった福田さんは、現在スイスの大学ローザンヌ高等音楽院を拠点にヨーロッパ各地で研鑽の日々を送っている。今回はチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を演奏。研修の成果を発揮して、主

2020年度 青少年の健やかな成長を育む活動 補助事業

(公益財団法人JKA 競輪公益資金 補助事業)

張すべきところは強く前面に打出す見事な演奏であった。そのことは、演奏し終えた広響メンバーの多くの顔が紅潮し、盛んに「足踏み拍手」していたことから感じられた(7ページ参照)。

このほか20代の演奏家では、成田達輝さんが松戸公演で浮ヶ谷孝夫さん指揮の東京21世紀管弦楽団とブラームスのヴァイオリン協奏曲を、辻彩奈さんが入間公演で三ツ橋敬子さん指揮の東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団とシベリウスのヴァイオリン協奏曲を、牛田智大さんが豊橋公演で原田慶太楼さん指揮の読売日本交響楽団とショパンのピアノ協奏曲第1番を協演し、みな卓越した演奏で観衆を魅了した。

2020年に誕生したばかりの楽団がある。東京21世紀管弦楽団である。音楽監督は浮ヶ谷孝夫さん。新型コロナウイルス感染症のため、第1回定期演奏会も予定よりおくれで8月の開催となったが、この楽団と11月に松戸公演を実施した。当財団では設立されたばかりの若いオーケストラも支援していく方針である。

巡回公演の一環として行っている楽器演奏クリニックは、例年30教室ほど行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、1カ所も開催することができなかった。2月の豊橋公演で開催を目指したが、2回目の緊急事態宣言が1月初旬に発令されたため、やむなく中止となった。豊橋の羽田中や牟呂中の生徒たちは毎回熱心に楽器演奏クリニックに参加しており、非常に残念であった。



アマチュアオーケストラ 石巻公演

アマチュアオーケストラの演奏活動は、関西シティフィルハーモニー交響楽団(大阪市)、広島市民オーケストラ(広島市)、石巻市民交響楽団(宮城県石巻市)の3楽団が行った。2月23日に大阪府豊中市で予定していたオーケストラ・リガールの演奏会は、ぎりぎりまで開催しようと模索したが、1月の緊急事態宣言を受けて2月はじめに中止を余儀なくされた。

アマチュアオーケストラについても、新型コロナウイルスの感染リスクを最小限に抑えるべく、対策を徹底して演奏会に臨んだ(5ページ参照)。また、ベートーヴェン生誕250年にちなんで、関西シティフィルが交響曲第8番を、広島市民オーケストラが三船優子さんとピアノ協奏曲第5番「皇帝」を、石巻市民交響楽団が交響曲第7

[巡回公演]

開催地	出演者	
京都府舞鶴市	9/20 指揮	日本センチュリー交響楽団 原田慶太楼
長野県岡谷市	9/22 指揮	新日本フィルハーモニー交響楽団 大植英次、ピアノ 上原彩子
千葉県松戸市	11/8 指揮	東京21世紀管弦楽団 浮ヶ谷孝夫、ヴァイオリン 成田達輝
埼玉県入間市	11/28 指揮	東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 三ツ橋敬子、ヴァイオリン 辻彩奈
新潟県加茂市	12/12 指揮	東京交響楽団 堀俊輔、ソプラノ 芳賀恵、メゾソプラノ 押見朋子、バス・バリトン 三浦克次
長野市	12/19 指揮	オーケストラ・アンサンブル金沢 柳澤寿男、オーボエ 上原朋子、ソプラノ 盛田麻央、メゾソプラノ 杉山由紀 テノール 村上敏明、バス 近藤圭
広島県庄原市	12/27 指揮	広島交響楽団 鈴木織衛、ヴァイオリン 福田廉之介
大阪府富田林市	2021年 1/16 指揮	大阪交響楽団 角田鋼亮、ピアノ 田村響 ピアノ 水谷桃子、東海林茉奈、三好朝香
愛知県豊橋市	2/7 指揮	読売日本交響楽団 原田慶太楼、ピアノ 牛田智大

[アマチュアオーケストラの演奏活動]

開催地	出演者	
大阪市	9/13 指揮	関西シティフィルハーモニー交響楽団 ヤニック・パジェ
広島市	10/25 指揮	広島市民オーケストラ 清水颯輝、ピアノ 三船優子
宮城県石巻市	2021年 1/31 指揮	石巻市民交響楽団 佐々木克仁

番を演奏した。

今年度行った12回の演奏会には、コロナ禍のなか多くの方々にご来場いただいた。来場者からは「コロナで多くの演奏会が中止になり、今日のコンサートを楽しみにしていた。地方ではオーケストラコンサートの機会が少ないので、これからもできる限り開催してほしい」という声が聞かれた。演奏会の回数には限りがあるが、多くの街にコンサートをお届けできるよう知恵を絞っていきたい。

2020年度の活動概要は以上であるが、巡回公演とアマチュアオーケストラの演奏活動それぞれについて当財団のホームページで詳しく紹介しているので、ぜひ参照していただきたい。

《巡回公演》

http://www.symphony.or.jp/i_annai_2020_001.html

《アマチュアオーケストラの演奏活動》

http://www.symphony.or.jp/iv_annai_2020_001.html

新しい日常のなかでできたこと

くさ の とも ふみ
草 野 智 文

加茂文化会館館長

新潟県加茂市は県のほぼ中央、県央地域に位置する人口約2万6千の市です。加茂文化会館のホールは1,085席で、建設当時から人口が減ったとはいえ、この自治体規模で1,000席以上のホールを持つのは珍しいでしょう。

今回、令和2年12月12日に「東京交響楽団演奏会加茂公演～田園交響曲と加茂の歌い手達～」を日本交響楽振興財団と共催で開催しました。巡回公演は9回目になります。

平成3年に開館10周年を記念して「第九演奏会」を開催してから30年近く、ほぼ3年に1回の割合で定期的で開催してきた「加茂の第九」は8回を数えます。アマチュアがプロのオーケストラの演奏で歌える貴重な機会として、県央地域の合唱愛好家の皆様に親しまれ、また支えられてきました。これだけの回数を重ねてこられたのは日本交響楽振興財団からの支援もさることながら、初回から音楽指導として市民合唱団を指導、運営され、県央地域の合唱団の育成にも尽力された故押見榮喜（おしみ・えいき）先生の功績でした。

今年の第九はこれまで培ってきたものに新風を吹き込もうと、市民合唱団実行委員長の押見朋子さんと話し合い、新たな試みを企画していました。しかし、新型コロナウイルス感染症のため全てがストップしてしまいました。

市民合唱団は練習回数を確保する必要があるため、7月に「第九合唱」を開催するかどうか決めることにしましたが、3月から地域の合唱団はすべて活動を停止していましたし、4月の時点で「危険ではないか」「職場からの通達で参加できない」という話もいただいていたので、6月に実行委員会（もちろんネット上です）を開いた時は、私は中止の意見ばかりになるのではないかと考えていました。しかし、「やっぱり第九を歌いたい」という声



受付での感染防止策

のか考えていくことになりました。所属する合唱団の取り組みを教えてください。オーケストラ等が行った実証実験の結果を



加茂公演

紹介してくれた方がいました。海外の感染事例の紹介や、距離をとりながら歌える隊列を検証してくれた方がいました。オンラインでの練習も検討しました。

結果を言えば、加茂市の判断として、合唱は大人数が集まり、感染リスクが高くなるためやめ、演目を変更して演奏会を開催することになりました。中止にしなかったのは、地域にエールを送りたいという意図があったためです。

そこで、加茂ならではの地域色をだすため、第九のソロをお願いしていた加茂市出身の3人の歌手、芳賀恵さん、押見朋子さん、三浦克次さんに出演願うことになりました。加茂の歌い手達です。プログラムの企画には指揮の堀俊輔さんが力を発揮してくださいました。

演奏会は座席数の制限で定員の半分以下にしましたが、チケットは完売、本番も観客の皆様喜んでいただきました。コロナ禍のなかでも、コンサートを待ち望んでいたことがわかりました。また、運営側としてうれしかったのは、万全のコロナ対策だったと評価してくださった方がいたことでした。しっかり対策をするのが当たり前なので過大な評価をいただいた感もありますが、何をするにおいても一番に考えなければならなかったことは、新型コロナウイルス感染対策だったからです。

最後に急な演目変更にもかかわらず、ご理解、ご協力、ご支援をいただいた公益財団法人JKA、日本交響楽振興財団や東京交響楽団、古関メロディーでお世話になった福島市ほか多くのご助力をいただいた皆様にご場を借りて感謝申し上げます。

感染症拡大の中で共有した音楽の大切さ

かの え ひろ あき
鹿 江 宏 明

広島市民オーケストラ副団長

2020年10月25日（日）に、広島国際会議場フェニックスホールにおいて、指揮に清水醒輝先生、ピアノに三船優子先生をお迎えし、日本交響楽振興財団との共催による第25回定期演奏会を開催いたしました。

2020年は、ベートーヴェン生誕250年にあたる年でもありました。幸運なことに指揮の清水醒輝先生に三船優子先生をご紹介いただき、ピアノ協奏曲第5番「皇帝」で協演することとなりました。オープニングはワーグナー作曲の楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕前奏曲、メインはフランク作曲の交響曲ニ短調とし準備を始めました。

ところが、2020年2月より新型コロナウイルスの感染拡大が国内でも広がり、3月には当団も活動を休止、さらには4月に予定していたスプリング・コンサートも中止となりました。やがて広島市内もホールなどが閉鎖され、音楽活動がほとんどできなくなりました。

一方、5月にはベルリン・フィルなどベルリンのプロ・オーケストラとシャリテ医大との共同実験による「オーケストラ活動のための推奨ガイドライン」が発表され、奏者間で1.5m（弦楽器）～2m（管楽器）の距離を開けることにより、感染拡大を防ぎながら演奏が可能であることが示されました。また、国内でも6月に東京都交響楽団が「COVID-19影響下における公演再開に向けた試演」を実施し、楽器演奏による感染拡大防止のデータが公開されるなど、明るいニュースも届くようになりました。

これらの情報を注視しつつ、当団は6月末に総会を開催し、翌7月より少しずつ練習を再開することとしました。しかしながら、広島市の感染者数は日々増減し、予断を許さない状況が続いていました。また、演奏会の開催にあたっては、クラシック・コンサートごとに感染症対策の差異が生じないよう、広島のプロ・オケである広島交響楽団の演奏会場の感染症対策を参考にさせていただきながら、演奏会開催に向けて準備を進めることとなりました。

幸いなことに、8月下旬以降から感染者数も少しずつ減少傾向となり、それまでの弦楽器・管楽器の分奏練習から全体練習が実施できるようになりました。とはいえ、

感染症は短時間で拡大する懸念もあり、演奏会を中止せざるを得ないこともありえます。その場合、入場料の返金対応が難しいことから、演



マスクを付けて全体練習に挑む（8月）

奏会を取容定員の3分の1程度にした全席予約制にするとともに、入場料は通常800円のところを無料にし、9月下旬にやっと演奏会開催の告知をしました。

演奏会当日は、来場された方に感染対策への協力をお願いしながらの開催となりました。事前に予約いただいたお客様はほぼ来場され、約450名の皆様と素晴らしい音楽を共有することができました。終了後のアンケートでは、「ベートーヴェンのピアノ協奏曲を中心に、繊細かつダイナミックな演奏で感激した」など、好意的な評価を多くいただきました。それとともに、「生の演奏会を待ち望んでいた！」などの記述も多く、演奏者としても忘れられない演奏会になりました。

最後になりましたが、感染症への対応が求められる中、日本交響楽振興財団と共催をさせていただく機会を得たことは、当団にとって、演奏会開催への大きな励みになりました。団員一同、心より厚く御礼申し上げます。



広島公演



2015年ワルシャワフィルハーモニーで行っているピアノ調整

ショパン国際ピアノコンクールと これからのピアノ業界

こみやま あつし
小宮山 淳

カワイ音楽振興会次長
日本交響楽振興財団評議員

国際コンクール担当ピアノ技術者

2000年の第14回ショパン国際コンクールで調律を担当したのが38歳の時。その時は、15年後にまさか53歳で第17回ショパンコンクール（2015年）も担当するとは全く思いもしなかった。コンクールでのピアノ調整は、参加者の将来を預かるとも緊張感のあるものであり、また大変過酷な日々であり、チューナー（調律師）にとっては心身ともにすり減る仕事である。それが50代の私に回ってくるとは……。

コンクールは日中に行われるため、ピアノ技術者が調整に当たるのはコンクール終了後の深夜から翌朝までであり、その数時間を各ピアノメーカーで割り振って行う。例えば、今日はKawaiが23:00～01:15、Yamahaが01:15～03:30、Steinwayが03:30～05:45、Fazioliが05:45～08:00なら、次の夜はYamahaが23:00～、Steinwayが……というように、ローテーションしながら調整している。

コンクール期間中は自社のピアノの響きをホールで自身の耳にて確認し、奏者の弾いている姿からピアノアクションの状態を想像して夜の調整に反映させる毎日だ。コインランドリーなどない海外では、ホテルの洗面所で手洗い洗濯し、干して畳んでアイロンがけする。コンビニなどもないため、水や軽食などはコンクールの合間に確保する。コンサートチューナーを目指していた20代の頃は、「海外で長期にわたるホテル住まい」に憧れていたが、実際に経験をすると中々のものであることが身に染みて感じられる。

ショパンコンクールは3週間強行われる。開催前から現地入りし事前調整を行うので、延べの滞在期間は4週間以上になる。その間、体調管理から洗濯まで気を使いながら、ピアノのメンテナンスを繰り返す。ショパン大好きな日本人が大挙してツアー観戦でワルシャワに滞在するので、コンクール会場やレストラン、カフェ等で各社のピアノの感想や演奏などに関する意見が頻繁に耳に入ってくる。内容によってはかなりへこむこともあり、また逆に励まされることもある。日本人観戦者が非常に多いのがショパンコンクールの大きな特徴のひとつだと感じる。

今後のピアノ界の取組み

2020年はコロナウイルスの感染が拡がり、世の中は激変した。予定されていたショパンコンクールは勿論、あらゆるイベントが延期・中止となった。ショパンコンクールは2021年にスライド開催となり、参加者は集中力を高め直すなど諸々の準備を再構築することになる。コンクールによって異なるが、参加者には年齢制限があり、20代後半のピアニストには参加できるコンクールに制限が出てくることになる。1年のスライドはたかが1年だと思われがちだが、されど1年なのである。

私の所属しているカワイ音楽振興会は、河合楽器の一組織なので営利も追求しなくてはならないが、若手音楽家や音楽団体と協力し合って日本の音楽界を微力ながら支えることも大切な活動である。コロナ禍で公演開催が不可能になった時期もあった。このままピアニストのサポートができないまま日々が過ぎ去って良いのか議論を重ねた結果、Webによる演奏動画配信（有料）に着手した。業界の知り合いに安価で高性能の録画録音機材を紹介してもらい、素人ながら数台の機材を駆使して収録、編集、配信にこぎつけた。手前味噌ではあるが、若いピアニストと同世代であるわれらがスタッフの対応力の高さに脱帽した。

緊急事態宣言が解除され、少しずつサロン公演も再開している。コンクール参加者が人前で演奏する機会を



カワイ表参道コンサートサロン（パウゼ）での感染予防対策をした上での公演受付の様子

失い、独特の感性が薄れるのを何とかカバーしたい。こうした考えの基にランチタイムコンサートを開始したが、2021年10月に向けて今後もピアニスト・サポートを続けていきたい。ショパンコンクール以外にも、2021年11月には浜松国際コンクールが予定されている。この冊子が発行される頃、日本と世界の状況が少しでも改善されていることを祈りながら筆を置く。



感謝の気持ちを忘れずに 自分の音楽を伝えていきたい

ふく だ れん の すけ
福田 廉之介
ヴァイオリニスト

広島交響楽団と庄原で協演

2020年12月27日に庄原市民会館にて、広島交響楽団の皆様とチャイコフスキーのバイオリン・コンチェルトを演奏させていただきました。広島交響楽団との初めての協演は2012年で、その後2013年にご一緒させていただいています。今回は7年ぶりの協演となりました。久しぶりの協演もあり、お話しいただいた時からずっと楽しみにしていました。演奏の機会をいただきとても感謝しています。チャイコフスキーのコンチェルトはこれまで何回も演奏してきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大という厳しい状況下、待ち望んでいた協演だっただけに、今回は何か特別な気持ちを抱きながらの演奏となりました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大により、3月から8月まで全ての演奏会がなくなり、当初はこの先どうすればよいのかと悩むばかりでした。しかし今は、私にとって残念な年だとは思っていません。むしろ自分にとって必要な期間だったと思っています。ここ数年、目先の演奏会を乗り越えることばかり考え、練習してきたので、この半年間は疎かになりがちな基礎をもう一度重点的に見直し、さらに今まで演奏しなかったベートーヴェンのコンチェルトをはじめ様々な曲に挑戦し、レパートリーを広げることに専念することができました。

コンサートは9月ごろから徐々に再開され、改めてオーケストラと演奏できる喜びを味わいました。沢山のお客様とともにホールの雰囲気を感じ、バーチャルの世界では決して体験することのできないリアルな音楽を提供し、感動で包み込む——これぞ芸術の本質です。

“The MOST”の立上げと活動

私は幼少期からいつかオーケストラを創りたいと思いつけていました。今年は多くの皆様の協力のもと、日本を代表する20代を中心とする12人の弦楽オーケストラ“The MOST”を立ち上げることができました。10月には初演となる日本ツアーも無事開催することができました。

メンバーにはミュンヘン国際コンクールで優勝したチェロの佐藤晴真さんをはじめ、普段ソリストとして活躍してる方々ばかりで、協演機会を実現すること自体が難しいことでした。私は彼らの演奏が場所や時間によって変わる一瞬一瞬の音楽表現を、聴衆の皆様はどう伝え

ば感じていただけるかということに常に考えていました。

そこで取り組んだのは、どのような強弱にするか、表現をどうするかなど普段の演奏会なら必ず決めることを、あえて決めないことでした。決めないことで、メンバー全員が次はどうするのか、常にアンテナを張り巡らせる緊張感に繋がるからです。そのことがとても素晴らしい音楽を生み出すことをメンバー全員で体感しました。



The MOST

若い世代との協演

私は10歳に満たない頃から様々な演奏会に出演させていただきましたが、当時は演奏会で聴いていただけることが嬉しくて、苦しい練習を続けることができました。現在、とくにコロナの影響により軒並みコンサートが延期や中止になる中、子供たちに少しでも演奏の機会をつくってあげたいという思いから、各地のオーディション等で選出された子供たちと協演することにしました。彼らが心の底から楽しんでいる姿を隣で見た瞬間、続けられる限り続けていくと心に誓いました。

この演奏会については、当初開催できるのかという不安と、開催してよいのだろうかという葛藤に悩みました。また、本格的な公演をプロデュースしたことがない私が、いきなり大きな挑戦をしていいのかと自問を重ねました。しかし、何とか本来あるべき音楽、芸術を聴衆の皆さんにお伝えようと思ひ、本当に多くの協賛企業や様々な関係者のご支援のお陰で、無事開催に漕ぎつくことができました。

普段は演奏家としての活動がメインなのであまり感じなかったのですが、“The MOST”のようなプロジェクトを実施する中で、多くの方々の協力があってこそひとつの演奏会が成り立っていることを強く感じました。今後も来ていただけるお客様や、演奏会を主催していただく皆様の思いに応えるべく、しっかりと練習に励み、自分の音楽を伝えていきたいと思ひます。

感謝の気持ちを忘れずに。

ご支援いただいている団体・企業

団体

(一社) 信託協会
石油連盟

(一社) 全国銀行協会
(一社) 日本鉄鋼連盟

(一社) 日本建設業連合会

ほか

企業

朝日生命保険(相)
アサヒグループホールディングス(株)
岩谷産業(株)
ANAホールディングス(株)
ENEOSホールディングス(株)
(公財) オリックス宮内財団
王子ホールディングス(株)
(株)河合楽器製作所
キッコーマン(株)
キヤノン(株)
キヤノンマーケティングジャパン(株)
KDDI(株)
三機工業(株)
清水建設(株)
信越化学工業(株)
スタインウェイ・ジャパン(株)
住友化学(株)
住友商事(株)
住友生命保険(相)
住友林業(株)
セイコーホールディングス(株)
積水化学工業(株)
(株)大和証券グループ本社
第一生命ホールディングス(株)

大成建設(株)
高砂熱学工業(株)
武田薬品工業(株)
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
(株)ティーワイリミテッド
(株)テレビ朝日
(株)電通
トヨタ自動車(株)
東京海上日動火災保険(株)
東京ガス(株)
東レ(株)
(一財) 凸版印刷三幸会
(株)ニフコ
(株)日新
(株)日清製粉グループ本社
日通旅行(株)
日本ガイシ(株)
日本製紙(株)
日本製鉄(株)
日本生命保険(相)
日本電信電話(株)
野村ホールディングス(株)

浜松ホトニクス(株)
(株)日立製作所
東日本旅客鉄道(株)
(株)フジテレビジョン
富士通(株)
富士フイルム(株)
双葉電子工業(株)
本田技研工業(株)
前田建設工業(株)
丸紅(株)
三井住友海上火災保険(株)
三井物産(株)
三井不動産(株)
三菱重工業(株)
三菱商事(株)
三菱地所(株)
三菱電機(株)
三菱マテリアル(株)
明治安田生命保険(相)
(株)ヤマハミュージックジャパン
ユニ・チャーム(株)
(株)龍角散
ローム(株)

編集だより

□2020年は新型コロナウイルス感染症の年でした。厳しい経営環境がつづくなかご支援いただきました企業・団体の皆様、また補助事業として当財団の活動を支援してくださいました公益財団法人JKAの皆様にご心より感謝申し上げます。

□私どもはコンサートのたびにアンケートを行っています。今年度は「コロナ禍の中よくコンサートを開催してくれた。久々に聴いたオーケストラの生演奏は心に響いた」という回答を数多くいただき、勇気づけられました。芸術は「不要不急」のものではなく、どんなときにも必要なものだということが確認された1年でした。

□作曲家で当財団理事の三枝成彰さんが2020年度の文化功労者に選ばれました。三枝さんには2006年から理事に就任いただいておりますが、理事会では音楽のみならず、森羅万象さまざまな話題についてお話をうかがっています。「三枝節」を聞くのも、理事会の楽しみのひとつとなっています。

□ENEOSホールディングス名誉顧問で当財団の理事や顧問を務めていただいた渡文明さんが2020年12月に逝去されました。渡さんには当財団の公益財団法人移行期に大変お世話になりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

□本紙にも若い音楽家に出てもらおうと、今回ヴァイオリニストの福田廉之介さん(21歳)に登場してもらいました。おそらく『財団ニュース』史上最年少の執筆者だと思います。庄原公演での演奏に加えて、「文章」も見事にこなしてくれました。

□2020年はベートーヴェン生誕250年でしたが、東京オリンピック開催年にもなるはずでした。加茂公演では古関裕而作曲の「オリンピック・マーチ」が演奏され、1964年東京大会を知る方々から当時を懐かしむ声が聞かれました。演奏前に指揮者の堀俊輔さんから「この曲の最後に『君が代』の一節を古関さんが入れているので、注意して聴いてください」という説明がありました。敗戦から復興を遂げ、アジア初のオリンピックを開催するまでになった日本。古関裕而はどんな思いを込めたのでしょうか？

□2021年3月1日現在の理事、監事、評議員、顧問は次のとおりです。理事：会長 原良也、専務理事 久保田政一、大谷康子、木村純子、三枝成彰、高松則雄、林寛爾、監事：緑川正博、藤原清明、評議員：海老澤敏、川本裕康、小宮山淳、佐沢英紀、寺西基之、中島洋、野田暉行、顧問：一柳慧、岩沙弘道、榎原定征、早川茂(敬称略・順不同)

公益財団法人 日本交響楽振興財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-9-3
電話 03-3253-2032 FAX 03-3253-0566
編集・発行人 林寛爾

E-mail nihon@symphony.or.jp
URL <http://www.symphony.or.jp>

2021年3月5日発行